

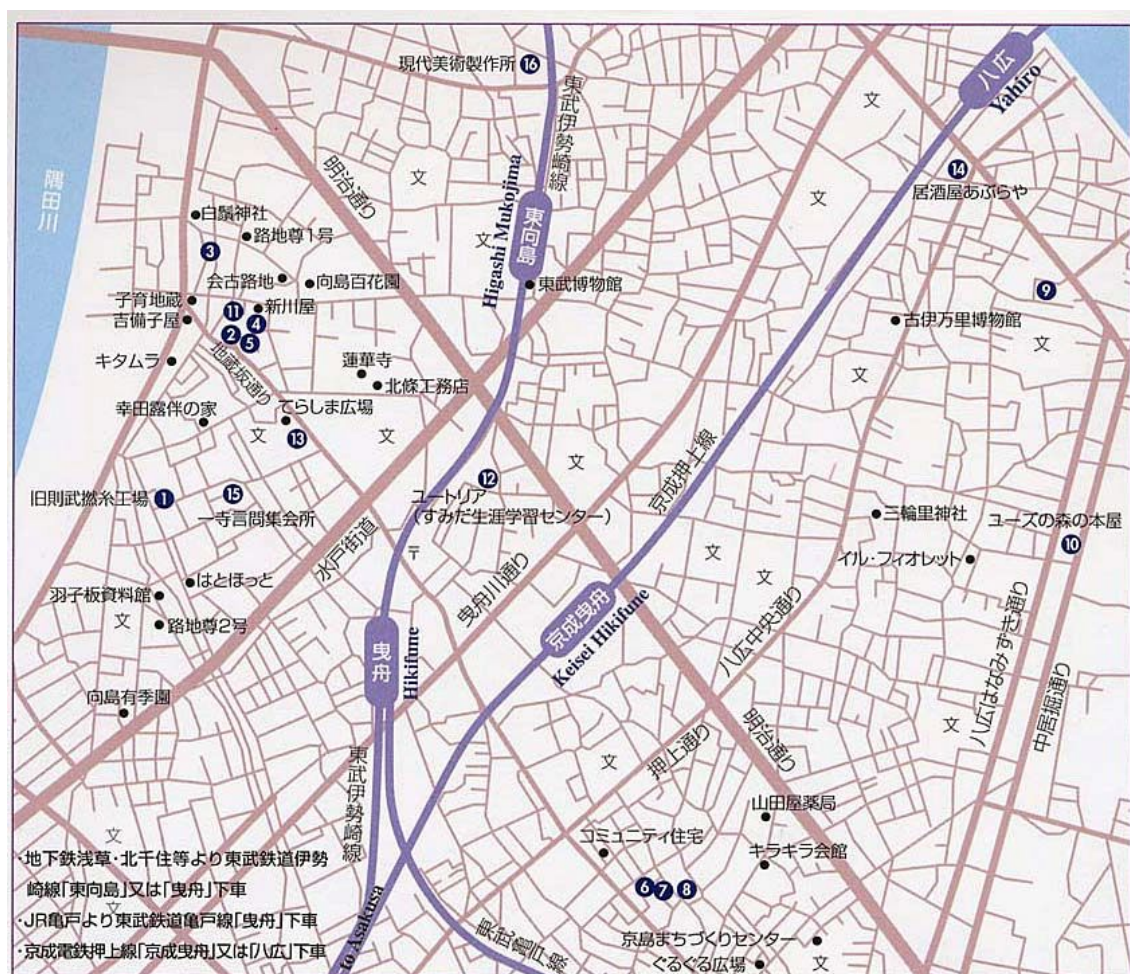
事例番号 054 防災から総合的なまちづくりへ(東京都墨田区・一寺言問地区)

1. 背景

一寺言問地区は墨田区北部西側に位置する隅田川沿いの地区である。町丁名では、東向島 1 丁目、3 丁目、向島 5 丁目、堤通 1 丁目になる。「一寺言問」という名称は、1980 年代半ばに地区の防災計画を立案する際、2 つの小学校(第一寺島小学校、言問小学校)が避難地として地区の中心になったことに由来する。地区の中(北部)には名庭園で知られる向島百花園がある。

この地区一帯は以前は農地であったが、20 世紀に急速に宅地化されて現在では低湿地に老朽化した木造建築物が密集して存在している地域となったため、防災上大きな問題を抱えている。一方、地区内には低層住宅とともにきめ細かな路地が豊富に存在しており、人間味あふれる魅力ある住宅地として人々の土地への愛着心は強い。

このような地区の状況を背景に、地区の人々が主体的に防災対策に取り組むところから一寺言問地区のまちづくりが始まった。そして今ではまちづくりの活動は防災の枠を越えて地区の総合的なまちづくりに発展している。



向島界隈の地図 (資料:『向島博覧会 2001』アートロジ向島博覧会 2001 実行委員会)

2. 目標

墨田区は地盤等の問題により防災が大きな課題になっていることから、都市計画マスタープランにおいては「災害に強い防災のまち」を都市像の第一に掲げている。そして、その具体的なイメージとして「逃げないですむ燃えないまち」(道路・公園等の整備、不燃化の促進等)、「安全に避難できるまち」(避難地、避難路の沿道市街地の不燃化)、「水害に強いまち」(堤防等整備、雨水処理機能の向上等)、「安心して暮らせるまち」(24 時間人がいて活気があるまち)を示している。また、その他の都市像としては、「快適に暮らせる魅力あるまち」、「活力ある産業のまち」を掲げている。

また、この地区における先駆的な市民組織のひとつである「一寺言問を防災のまちにする会」は、「災害があっても、逃げずにすむまち、死なずにすむまち」を活動目標に掲げている。

3. 取り組みの体制

防災事業を契機に、行政の働きかけで住民組織と行政との協働のまちづくりが進んだ。防災まちづくりが一段落した後は、市民組織が主体的に独自のまちづくりを展開している。主な組織には「わいわい会」、「一寺言問を防災のまちにする会」、「まちづくり才団・川の手倶楽部」、「向島学会」等があったが、その後これらの組織が整理・統合され重層的に連携してまちづくりを進めている。

4. 具体策

(1) 主な組織と活動状況

① 「わいわい会」

墨田区では 1985 年に東京都の「防災生活圏モデル事業」を開始した(1992 年まで、1993 年～1996 年は同促進事業)。その導入にあたって墨田区が「まちづくり芝居」などの仕掛けでわかりやすく地元呼びかけ、住民(町会役員でない)有志が「わいわい会」を結成した(1985 年)。同会は、墨堤の桜祭りに展示館「一言亭」を出して防災まちづくりを PR したり(1986 年)、防災まちづくりイベント「一言祭」を開催したりした(同)。「わいわい会」は今日に至るまで地元諸組織の原動力的存在として活動を続けている。

② 「一寺言問を防災のまちにする会」(一言会)

防災まちづくりの活動を地区全体に広げるため、「わいわい会」と地元の 6 つの町会で組織された「一寺言問を防災のまちにする会」(一言会)が発足した。6 つの町会と「わいわい会」のそれぞれから 3 名ずつ理事を出し、その中から 1 名が役員になるという組織構成である(地区住民のほぼ全員を会員とみなす)。プロジェクトに応じて担当の町会を決め、その町会の理事を中心に担当者会議を設けるという形で事業を進め、その活動内容の紹介等のために「防災まちづくり瓦版」を発行した。防災生活圏モデル事業および同促進事業の期間中は区が事務局に入り、同事業を活用してコンサルタントによる支援や経費等の面での支援を図った。

これまでの主な活動は、以下のとおりである。

- 1) 「防災まちづくり計画」の作成(1987 年、「わいわい会」がたたき台作成)、区長提出
区はそれを元に「一寺言問地区整備計画」を策定した。

2) 「路地尊」1号基～6号基の設置(1987年～1996年、区との協働)

雨水利用の防火装置を地区内各所に設置した。この装置は、雨水タンクと手押しポンプを組み合わせたもので、そのユニークな形がまちづくりのシンボルになっている。

3) 道路の整備(区との協働)

「旧墨堤之道」(1990年)、「百花園通り」「寺島のみち」(1991年)、「桜橋デッキスクウェア」(1992年)、「三とも通り」整備(1994年)等の整備を行った。

4) 「一寺言問集会所・広場」整備(1996年、区との協働)

一言会が工場跡地の買収を区に要望して公共用地になった土地に計画した。土地の利用方法を住民、区、専門家が参加するワークショップで検討した結果、まちづくり活動の拠点と展示スペースの必要性が浮かび上がり、建築を実現した(当初は広場のみ整備予定だった)。「共通する目的に向かって集う多様な思いを、包み込む空間」をテーマに、通り抜け通路を設ける等の工夫をこらした整備が行われた。

5) その他

商店街と連携した地藏坂通りの通行規制、歩道整備の検討、「防災まちづくり衆会(フォーラム)・すみだ」(1990年)の開催等を行った。

促進事業が終了した1996年からはボランティア組織となり、ポケットパークの自主整備、見学者への説明、まちづくり資料室の管理、瓦版の発行等を行っている(拠点は一寺言問集会所)。

昭和六十年に東京都の「防災生活圏モデル事業」の指定を契機に歩みをはじめた、「一寺言問」を防災のまちにする会(通称「一言会」)の活動が、今年で二十周年の節目を迎えました。

「一言会」では、都内でも指折りの災害に弱いまちといわれる私たちのまちの防災問題を、地元住民の創意で考え、まちの明日を担う子どもたちに、この町を「災害があっても、逃げずにすむまち、死なずにすむまち」として残していく活動を進めています。この瓦版をはじめ、路地尊など、活

動は全国的にも多くの評価をいただき、これまで、日本建築学会より「文化賞」や第一回防災まちづくり大賞で「自治大臣賞」をいただきました。

一言会では、地域内にお住まいの、すべての皆さんが会員と考えて活動を進めています。燃えにくい建物に建替えて道を広げてくださった皆さん、草花でまちの潤いを創ってくださった皆さん、そして、いつもご近所に挨拶をかわしている皆さん、皆さんのお気持ちこそが「防災まちづくり」活動といえます。一言会の活動もこのようなお気持ちのおかげで続けることができました。ありがとうございます。

二十周年を迎え、十一月十三日(日)の午後二時から、一寺言問集会所を会場に記念式典が開催されます。また、左記のような記念事業を準備中です。

長い時間をかけて作られた一寺言問集会所

一言会の地域

祝「一言会」20周年!



No. 52

安心できるおのり、下町の手まぎれとして

防災まちづくり瓦版

発行：一寺言問を防災のまちにする会

平成17年11月1日

いちでらことばい
一寺言問／防災まちづくり瓦版
編集／一寺言問を防災のまちにする会・編集局
発行／一寺言問を防災のまちにする会
代誌 青木 隆雄
連絡先／墨田区都市整備担当地域課課長
〒130-8540 墨田区吾妻橋1-23-20 瓦(5608)8281

まちづくり瓦版 平成17年11月1日発行

路地尊の配置



路地尊第1号基 (御向町3-14-16)
ROJISON No. 1 (Higashi Mukojima 3-14-16)



路地尊第4号基 (金古路地) (御向町3-15-13)
ROJISON No. 4 (EKOROUJI) (Higashi Mukojima 3-15-13)

「昔馴染」のまち路地尊は、路地が持つ「安心感」を大切に、その安全を高めようとしてまいりました。その土地に根を張り、暮らしの質を高めようとしてまいりました。

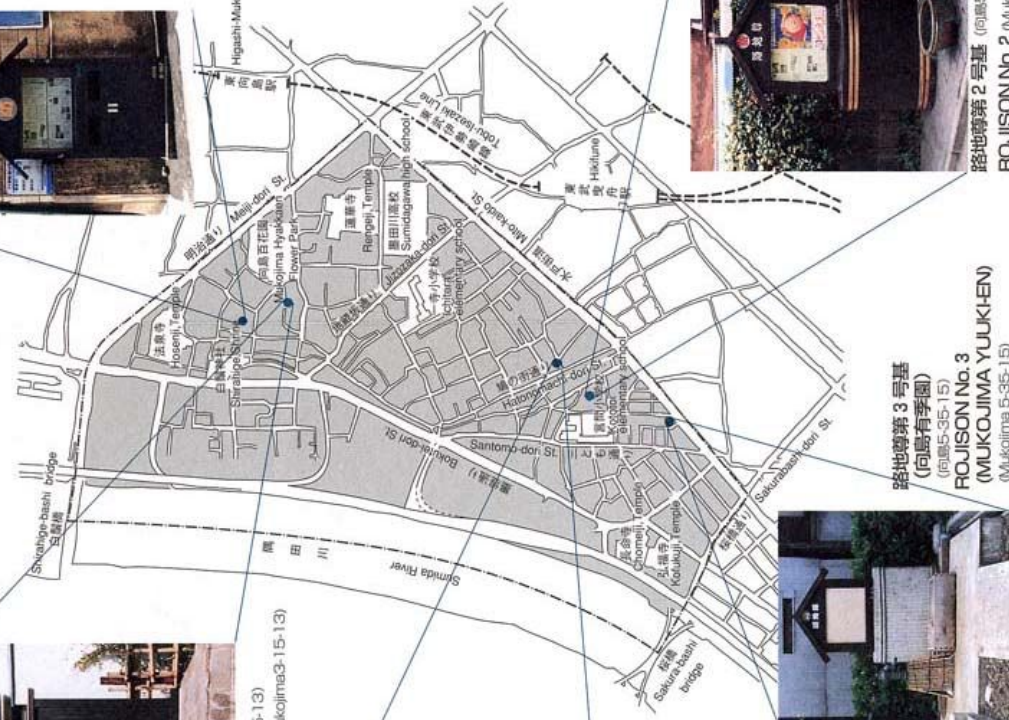
当初、企画・計画は、まちづくりが中心でしたが、区民の意見を聞き取り、その意見を踏まえ、まちづくりを進めてまいりました。



路地尊の配置 (資料: 墨田区まちづくり事業推進部地域整備課『一寺言問/路地尊あらし』)

このまちには、路地尊「一寺言問」が、一寺言問が、まちづくりを進めようとしてまいりました。路地尊「一寺言問」は、まちづくりを進めようとしてまいりました。路地尊「一寺言問」は、まちづくりを進めようとしてまいりました。路地尊「一寺言問」は、まちづくりを進めようとしてまいりました。

日常的には、路地尊の配置は、まちづくりを進めようとしてまいりました。



路地尊第2号基 (御向町5-39-4)
ROJISON No. 2 (Mukojima 5-39-4)



路地尊第3号基 (向島有季園) (御向町5-35-15)
ROJISON No. 3 (MUKOJIMA YUUKI-EN) (Mukojima 5-35-15)

路地尊第5号基 (はとぼと) (御向町1-25-1)
ROJISON No. 5 (HATOHOTTO) (Higashi Mukojima 1-25-1)

路地尊の配置は、まちづくりの進め方の中で進められました。路地尊は、まちづくりを進めようとしてまいりました。路地尊「一寺言問」は、まちづくりを進めようとしてまいりました。路地尊「一寺言問」は、まちづくりを進めようとしてまいりました。

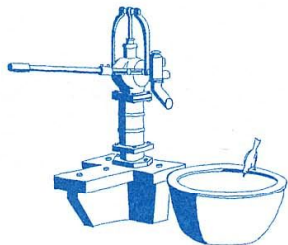
一寺言問/路地尊 (真の式) あらし
 平成5年(1993年)12月
 編集・発行/墨田区まちづくり事業推進部地域整備課
 墨田区喜多町1-23-20
 Tel 5608-1111 (代表)
 協力/株式会社建築研究所
 印刷/大井印刷工業株式会社

路地尊のシステム

第2号基を例に、そのシステムを紹介しましょう。

路地尊の本体は掲示板を兼ねた「路地の安全を守るシンボル」です。そこに隣の民家の屋根に降った雨水を流し込み、簡単な装置で浄化して地下のタンクに溜めます。使う時は昔懐かしい手押しポンプで汲み上げるといっシステムになります。このように電気や水道に頼らない簡便な装置にしたのは、ライフラインがストップした災害時を想定したからです。最近では地球環境問題との関連でも注目を集めています。

ポンプの下には水鉢が置かれて、金魚がかわれています。災害時に飲料水が必要になった時、金魚が生きている水ならば、飲んでも大きな支障はないといっことから、金魚を路地尊の水の安全性の指標としています。

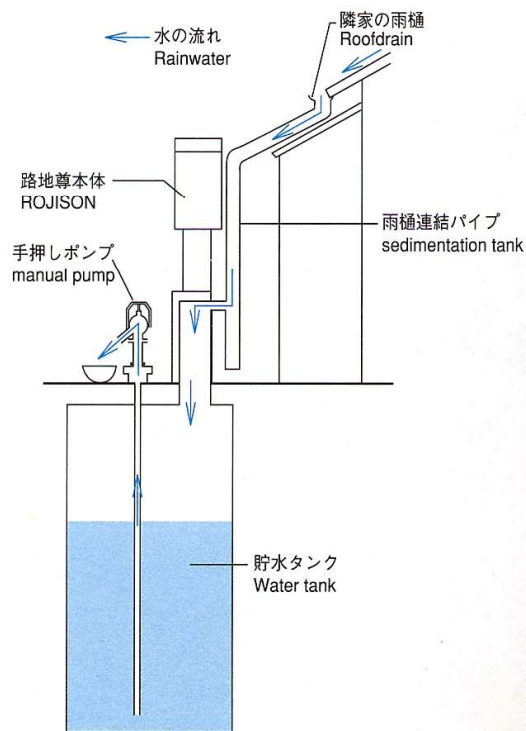


THE ROJISON SYSTEM

Using the second Rojison as an example, we will explain the system.

Rainwater that falls on the roof of the neighboring house is collected in the underground water tank after it has passed through a sedimentation tank. The water may then be pumped up from the tank by use of a manual pump. As the system does not depend on electricity or water service, it can be used in emergencies when such facilities may no longer work. Recently the rojison has been the focus of much attention since it can be useful in improving the environment.

The bowl under the pump contains water from the Rojison in which goldfish water is safe for drinking in the water is safe to drink or not.



路地尊システム (資料: 墨田区まちづくり事業推進部地域整備課『一寺言問/路地尊あらまし』)

③ 「まちづくり才団・川の手倶楽部」

住民有志主体に都市計画専門家、地元企業等をメンバーとして 1988 年に「まちづくり才団・川の手倶楽部」が発足した(行政関係者は準会員、ただし行政からの支援はない)。墨田区等への提言を行うとともに、さまざまなプロジェクトの事務局を勤めてきた。主な事業は、「向島の未来を考え

るシンポジウム」の開催(1988年)、まちづくり構想「粋な墨堤界限」の作成・提言(1991年)、海外のさまざまなNPOとのまちづくりに関する情報交換、「向島国際デザインワークショップ」の開催(他組織と協働、1998年)、「空き地・空き家の改善と小規模連鎖型開発のモデルづくり」の検討(同、1999年)、「向島博覧会」の企画提案(同、2000年、2001年)等である。現在は発展的に解散してその意志は「向島学会」に受け継がれている。

④ その他の組織

一寺言問地区にはまちづくりに関係するさまざまな組織が出現している。主なものには、「Avenue 編集委員会」(1995年発足、情報誌の発行)、「雨水利用をすすめる全国市民の会」(1996年、雨水利用に関する技術開発・普及・国際交流等、向島に事務局)、「向島のまちづくりを支援する専門家集団 SONOTA」(1999年、グループマンション構想、空き地・空き家の改善と小規模連鎖型・環境共生型開発の検討等)、「すみだ学習ガーデン」(2000年、すみだ生涯学習センターの管理運営)、「e-すみだ」(2000年、若手経営者等によるスタンプラリー、無料配送、情報サービス、無料レンタサイクル等)等がある。

(2) まちづくり活動の新たな展開

① 向島博覧会

上記諸組織の連携により1994年に「雨水利用東京国際会議」が、1998年に「向島国際デザインワークショップ」が開催されるなどまちづくりの活動は広がりを見せ始めたが、1999年には「向島博覧会実行委員会」が組織され、その主催により2000年に「向島博覧会」が開催された。この博覧会では空き地や空き家を活用してさまざまなイベントが行われたが、それが防災、防犯、少子高齢化、アート企画等地域再生に関わるテーマを地区住民、専門家、行政等が協働で検討する契機となった。

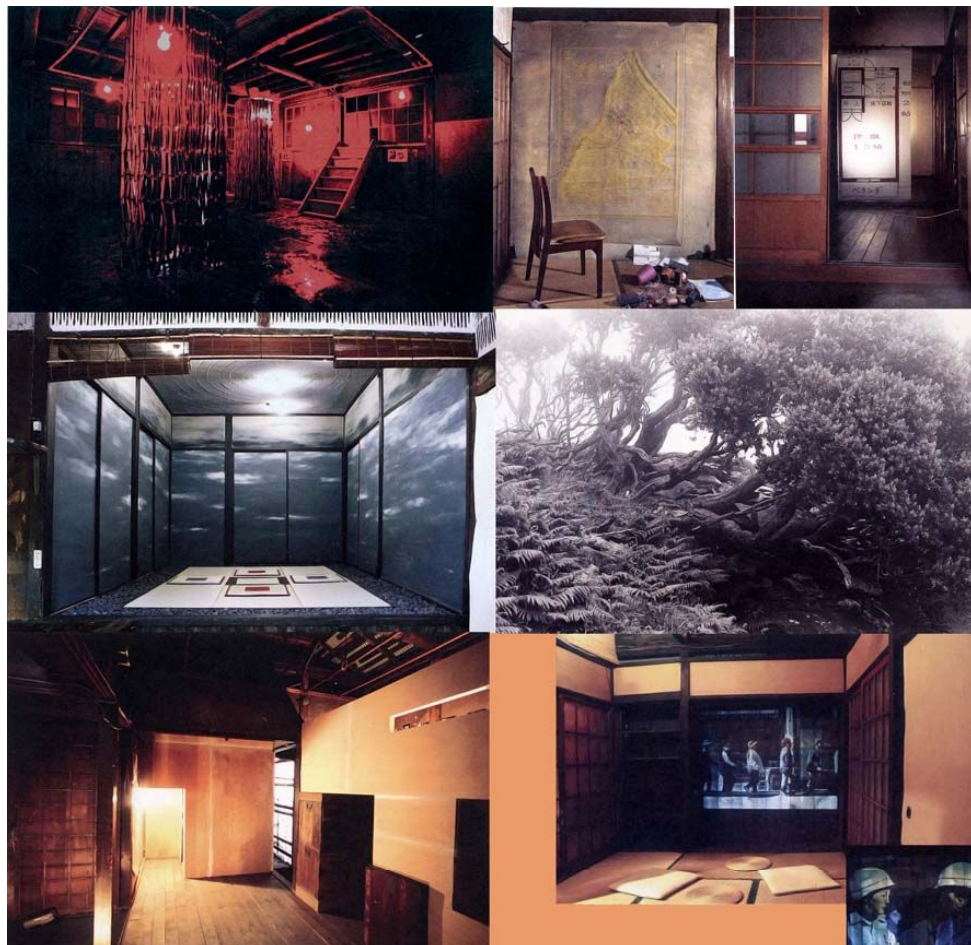
また、博覧会を契機に老朽化した家屋に若手アーティストが多数居住するようになった。それは、博覧会におけるアートイベントを企画する「クリエイター会議」に地区外から多数のアーティストが参加したことの結果である。彼らは、空き家を改修して住み始めたので、その過程を通じてアーティスト、地元大工等の職人、地元住民、ボランティア等のネットワークが形成された。そして、彼らを中心に「向島アーティストネットワーク」が形成され、2001年も向島博覧会が開催されることとなった。



出展一覧(冒頭の地図参照)



「向島博覧会 2001」のチラシ（資料：向島学会）



「向島博覧会 2001」の展示の一部（資料：『向島博覧会 201』実行委員会）

向島にグループマンションを実現する

Symposium "The realization of a "Group-Collective Residence" at Mukojima"

日時:2001(平成13)年11月20日(火)

午後6時半~9時

会場:一寺言問集会所

主催:向島博覧会実行委員会

共催:まちづくり才団・川の手倶楽部、向島のまちづくり

りを支援する専門家集団「SONOTA」

「住み慣れたまち・向島で、安心知れた仲間たちと一緒に安心して暮らせる新しいライフスタイルのマンションを自分たちの手で建てよう。」

向島でも、人口の高齢化が確実に進行している。現状のまま推移すると、個人や家族の負担はますます増大する恐れがある。また、昔ながらの下町コミュニティの形が崩壊する。また、昔ながらの下町コミュニティの形が崩壊する。また、昔ながらの下町コミュニティの形が崩壊する。

このマンションは、向島の居住者が自ら建設組合を設立し、空き地等を借りて建てたもので、1階に医療介護等のサービス施設を併設した高齢者に優しい住宅である。建物建設時からの定額地権者制度を活用して手頃な価格に抑え、同時に、ライフスタイルに合わせた自由な間取りができるようにしている。

このシンポジウムでは、こうした住まいづくりに詳しい延藤安弘、千葉大学教授を招き、全国各地の事例を紹介していただいた後、地元住民や行政関係者をお招きして、その実効性に関するディスカッションを行った。高齢者のみの住宅でなく多く世代が居住できるようにすること、周辺に連鎖(増殖)して密集市街地改善につなげていく仕組みと呼び

かけが必要なこと。入居後の維持管理が重要でNPO等を活用していくこと。まだ敷地が確定していないので早めに確保すること、等の意見が出された。

延藤教授による講談のような話芸と洒落った語りなコメントもあって、会場一杯の参加者による熱のこもったシンポジウムは、予定時間を超えて3時間近くに及んだ。

(向島のまちづくりを支援する専門家集団SONOTA)



Both the Kawanote Club and SONOTA have been concerned with the renovation of Mukojima and they jointly proposed a new type of "Group Collective Residence" project.

The idea put forward was that the inhabitants of Mukojima themselves should organize a building union and this union should arrange for construction of a residence on a rented plot in collaboration with public institutions and professionals.

That evening, after the slide lecture by Yasuhiko Endo, Ph.D. professor of Chiba University, attendees held a lively discussion and decided the following: This residence should be made available for use by all generations and for all functions; it should be linked with other sites in the neighborhood so as to help improve existing urban conditions and NPOs should play an important role in all operations.

SONOTA



建て替えデザインゲーム

"Rebuilding Design Game" Workshop



This workshop was planned by Professor Satoshi of Waseda University and his students to imagine the future of the residential environment in Mukojima.

In this game, we were able to create a simulation of street views through the use of a small CCD camera and follow some processes of community design through role-play. In the workshop, first of all Professor Satoshi lectured about the effects of this game and about community design. After that, local people played the game for about two hours visiting many galleries. As a result, lots of wonderful ideas for environmental design were gathered.

Yosuke Mano

日時:2001(平成13)年11月23日(金・祝)

午後2時~5時

会場:一寺言問集会所

主催:早稲田大学理工学部建築学科佐藤滋研究室

共催:向島博覧会実行委員会、向島のまちづくりを支援する専門家集団「SONOTA」

後援:(財)東京都防災・建築まちづくりセンター

これまで多くの成果を上げてきた向島のまちづくりの次のステップ、特にまちの将来の空間イメージを考えるきっかけをつくりたいという思いから、研究室で開発し、さまざまな地域で実践してきたワークショップ「建て替えデザインゲーム」を企画した。

まず最初に、佐藤教授によって、このゲームを用いたまちづくりの可能性の簡単なレクチャが行われた。そのあと、地域住民の有志10名がプレイヤーとなり、5人ずつの2つのチームに分かれてゲームを体験した。

このゲームでは、路地構成や敷地の形など、向島のまちの特徴を読みとり、100分の1サイズの模型で再現した仮想的なまち目録「2丁目」を用いた。各プレイヤーはこの模型によるまちのなかで、ある設定の住民になりきり、さまざまなきっかけによって自宅の建て替え時期に遭遇しながら、将来のまちをつくりあげていく。「ロールプレイ」によってゲームを進める。

小型CCDカメラを用いたまちなみシミュレーションによって、まちなみの雰囲気づくりを議論したり、専門家にアドバイスを受けながら、個人のライフスタイルや将来の生活プランを反映しながら建物をつくっていく。色々なものさしで将来のまちを考えることができる。また、プレイヤー同士がお互いの価値観や将来のまちへの思いを共有し、利害や権利を調整しながらまちをつくり上げていくというプロセスが体験できる。

一方通行にして歩きやすい歩道が整備されたみちや、屋上を緑化して、通沿いは商店や高齢者向けの施設、人が集まれるスペースなどを持った低層マンション、建物によって囲まれた中庭や通り庭、下町らしい雰囲気をもったデザインなど、これまでにない新しいアイデアがふん

たんに出された。

集会所の開放的なデザインのおかげもあり、秋晴れの中、多くのギャラリーとプレイヤー、企画チーム、取材チームが一体となり、熱のこもったワークショップ

となった。

(真野洋介+阿部俊彦+早稲田大学佐藤研究室)



② 向島学会

向島博覧会をきっかけに向島のまちづくりに関心を持つ人々が集まり、2002年に「向島学会」を設立した。向島ではこれまでまちづくりに関するさまざまな取り組みが行われてきており、資料も豊富に蓄積されているが、それらを有効に活用して今後のまちづくりのあり方を考えていこうというねらいである。向島学会は近々NPO法人化される予定であり(2006年7月1日現在における見込み)、さらに将来は大学の設立も考えている。向島学会は、これまで「交流サロン」の開催(2ヶ月に1回程度)、「向島学会・夏季大学(研究発表会)の開催(2002年)」、「密集市街地再生シンポジウム」の開催(2003年)、アートイベント等への後援・支援(「都市計画キャラバン2004向島」(アートと暮らしとまちづくり)等)、「向島タウン・ツアー」の開催(2005年)等を行ってきている。

5. 特徴的手法

防災を契機に始まったまちづくり活動であるが、行政が市民組織の主体性を重視したために活動の分野が次第に広がる効果があらわれ、現在では環境、芸術等総合的な視点で市民組織が主体的にまちづくりに取り組んでいることが大きな特徴である。また、多くの市民組織が連携して有機的な関係を築いてきたことから、まちづくりの活動に継続性が確保されていることも特筆すべきことである。さらに、市民組織の中に国際交流を図るものがあらわれ、地元発のまちづくり活動が国際的なネットワークを持ち始めていることも他ではなかなか見られない大きな特徴である。

6. 課題

地区内の建築物の老朽化、人口の少子高齢化等の問題は依然として進行しており、関係組織の取組・連携を今後さらに強め、活動の範囲を広げていく必要がある。

(参考・引用文献)

墨田区ホームページ

向島学会ホームページ

日本建築学会編『まちづくりの方法』丸善、2004年